

Web を利用した空中写真閲覧サービスの効率的な管理手法等に関する調査作業

実施期間 平成 16 年度
地理情報部情報普及課 石関 隆幸 島田 久嗣
高桑 紀之 石井 宏

1. はじめに

国土地理院では平成 14 年度から Web による空中写真閲覧サービスを行っている¹。サービス開始以来、順次提供範囲を拡大し、平成 16 年度末には国土地理院が平成 8～12 年度に撮影した全国分の写真および米軍が昭和 20～30 年頃に撮影した一部地域の写真の閲覧が可能になった。

しかし、今後さらに多くの空中写真を質の高いサービスで提供していくためには、現サービスを効率的に維持管理する手法の確立が必要である。

そこで、本研究では現状の業務フローを分析し、将来にわたり効率的に維持管理するための最適な手法について検討した。また、利用者のニーズを収集していくため、アクセス状況や問い合わせに対する効率的な管理手法の検討も行った。

なお、本研究は財団法人日本地図センターを実施機関として調査を行ったものである。

2. 研究内容

(1) 空中写真閲覧サービスの効率的な維持管理手法の検討

現在の業務フローでは、空中写真を Web 上で公開するためにいくつかの複雑なタスクを行っており、時間がかかる割に、質の高い情報（例えば「標定図が正確である」など）が提供されているとは言い難い。そこで、大量の質の高い情報を短時間で提供していくための手法の概念設計を行った。

(2) アクセス状況等の効率的な解析手法に関する検討

将来的に安定的・効率的にシステムを維持管理していくため、時間と共に変化する利用者のニーズに対応していく必要がある。そのための手法について、Web を利用した同種サービスを提供しているシステムについて最新動向の調査を行い、効率的なアクセス状況の解析手法の検討を行った。

(3) Web 閲覧者からの問い合わせに対する管理システムの検討

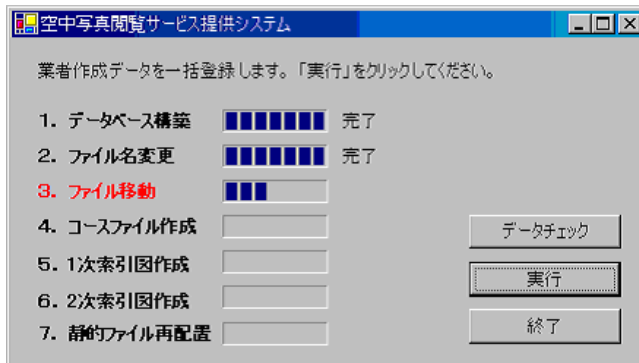
利用者からの問い合わせ内容を収集することで、直接的なニーズを取り入れることが出来る。そこで、同種サービスにおける問い合わせ管理システムについて最新動向の調査を行い、問い合わせ管理手法の検討を行った。

3. 得られた成果

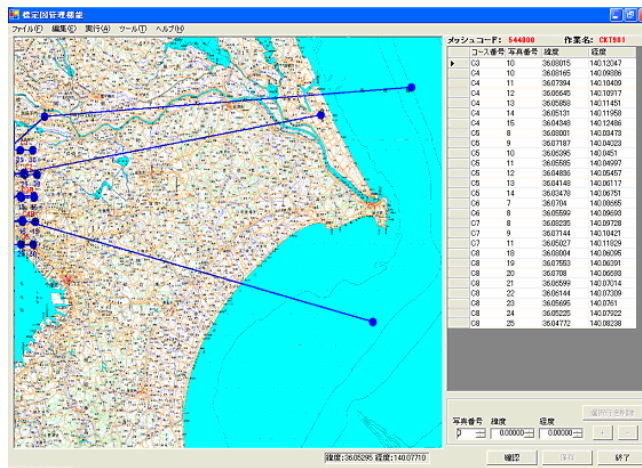
空中写真閲覧サービスの効率的な維持管理手法の検討について、現在手作業で行っている部分を支援する「空中写真閲覧サービス提供システム」を作成した。このシステムは、以下の 2 つの機能から成る。

¹ <http://mapbrowse.gsi.go.jp/airphoto/index.html>

- (1) 「データ一括登録機能」：空中写真閲覧サービスのページで使用するファイルの作成・移動を一括で行う（図－1）。
- (2) 「標定図管理機能」：標定図上の標定点および経緯度のデータを修正する（図－2）。



図－1 データ一括登録機能



図－2 標定図管理機能

これにより、手作業のときに比べ大量の質の高い情報を短時間で提供することが出来るようになった。アクセス状況等の効率的な解析手法については、費用対効果や管理しやすさの観点から、Web サーバのログ解析ソフト「Analog」²の利用が好ましいという結論に至った。

また、閲覧者からの問い合わせに対する管理システムについては、ほとんどのソフトウェアがCRM(Customer Relationship Management)を基盤とした顧客からの問い合わせ管理として利用されているため、費用対効果なども考えて特にソフトウェアを導入せず、メールを中心としたニーズ収集・管理を行うのが好ましいという結論に至った。

4. 結論

本調査作業では、効率的に空中写真閲覧サービスを維持管理していくため、業務フローを分析し、一部を自動化で行うツールの開発、及びアクセス状況や問い合わせの管理システムの検討を行った。今後は本調査の結果を踏まえ、ログ解析システムの構築、及び空中写真閲覧サービスについての新たな業務フローのマニュアル化を行い、空中写真閲覧サービスの管理の効率化を図ると共に、利用者のニーズに応じたサービスの提供を行っていくことが必要である。

² <http://www.analog.cx/>